

プレチャレンジ in 福島 報告

日時

平成25年11月30日（土）

場所

福島県立福島高等学校

〒960-8002 福島県福島市森合町5-7-2

参加スタッフ

近藤泰洋 物理オリンピック日本委員会常務理事

光岡 薫 物理オリンピック日本委員会常務理事

原尚志 福島県立福島高校

なお、福島県教育庁高校教育課より

森下陽一郎指導主事が参観された

プログラム

10:00 - 10:05 開会挨拶 原、近藤

10:05 - 10:30 物理チャレンジ・国際オリンピックの説明 光岡

10:30 - 11:00 物理への誘い 光岡

11:00 - 12:00 第1・第2チャレンジ問題の解説 光岡、近藤

12:00 - 13:00 休憩

13:00 - 13:30 実験レポートの書き方 近藤

13:30 - 14:55 実験研修 近藤、光岡

14:55 - 15:00 閉会挨拶 近藤、原

参加校

福島高校 12名（1年生6名 2年生8名）

会津高校 2名（1年生のみ）

会津学鳳高校 7名（1年生のみ） *中高一貫

米沢興穰館高校 5名（1年生のみ）

計26名

始めに福島高校の原先生より開会のあいさつと、近藤、光岡両名の紹介があり、ついで近藤理事が今回のプレチャレンジの概略を説明した。 ついで光岡理事が国際物理オリンピックの紹介と、日本代表選出に至る、物理第1チャレンジから第2チャレンジ、派遣候補の研修、代表選手選抜に至る過程の説明を行った後、引き続き、第1チャレンジの説明と理論問題の過去問を幾つか例題として示し、物理への誘いとして問題の面白さを説明するとともに、

どのような問題が考えられ、どのような理解が要求されているかについても説明した。
午前最後に、近藤理事が第1チャレンジの実験レポートについて、どのような点が配点上考慮されるかについて説明し、午後の実験テーマについて説明した。

昼食後、2年生は偏光の実験を、1年生は大気圧測定の実験を行った。実験には1時間半ほどしか割けなかったため、問題を簡単にして、実験結果が得られるようにし、レポート作成の練習を可能とした。特に1年生は、実験レポート作成の経験が全くなく、第1チャレンジ参加への良い練習になったと思われる。今後も実験課題については、なるべく結果が容易に得られる課題を選び、レポート作成まで行えるようにするのが望ましいと感じた。

